

土木構造物荷重指針連合小委員会 第6回 議事録(案)

日時 : 2004年1月30日(金) 10:00~12:00

場所 : 土木学会 A会議室

出席者 : 白木副委員長、佐藤幹事長、秋山幹事、香月幹事、勝地幹事、川谷委員(野村氏代理)、北原幹事、斎藤委員、澤田幹事、鈴木幹事、塚本委員、長尾幹事、中村幹事、松島委員、三島幹事、佐々木幹事

議事 : 1) 前回議事録確認

2) 発題と討議

- ・ 本編見直し案の説明 : 佐藤幹事長
- ・ 「作用に関する整理」について : 佐々木幹事
- ・ ISO-TC98における作用の定義について : 澤田幹事
- ・ 作用の分類と設計における作用の組合せ(設計状況)の関係 : 本城幹事長

配布資料 : 6-0) 議事次第

6-1) 第5回 議事録(案)

6-2) 本城目次構成案に対する具体的記述部分挿入(たたき台) : 佐藤幹事長

6-3) 作用に関する整理 : 佐々木幹事

6-4) 作用に関するメールでのディスカッション : 佐々木幹事

6-5) Framework for determining the action on structure (ISOワーキング資料から) : 澤田幹事

6-6) 作用の分類と設計における作用の組合せ(設計状況)の関係 : 本城幹事長

前回議事録の確認

- ・ 前回幹事会(2003.12.19)の討議として、長尾委員が指摘された「シナリオベースの作用の設定もある」旨の発言を加える。
主な討議 (発言者、敬称略)
- ・ 本編見直し案の説明が佐藤幹事長よりなされた。
- ・ 「作用に関する整理」について佐々木幹事より説明がなされた。
- ・ ISO23469ではreference ground motionが英語名として採用された(澤田)。
- ・ 作用モデルを作用とした方が良い(澤田)。
- ・ 荷重は、力学的な作用のうち相互作用によって影響を受けないものと定義できる。
- ・ 要求性能はPerformance RequirementだがRequirementは強すぎるという意見があり、ISO23469ではPerformance Objectiveとした(澤田)。
- ・ 作用因子の英訳は今後、議論が必要。
- ・ 資料6-3(作用に関する整理)が整理されれば各論に入ることができる。3/10の幹事会で風作用の先生方のご意見を伺った上で合意を得る。
- ・ 本城幹事長が示された作用組合せならびに設計状況についての整理は重要であり、幹事会マターとして、今後議論する。

今後の予定

・ 次回開催予定

・ 第7回委員会 4月7日 10:00 ~ 12:00 土木学会 A 会議室

以上